

No. 5 : 夏の風物詩「ブックフェア」

一年を通じて多彩なイベントが開催される香港だが、毎年7月になると、ひととき大きな熱気に包まれるのが「香港ブックフェア」だ。多くの書店や文房具店が出展し、新刊書籍や限定商品、割引商品を求める来場者で会場は連日すさまじいにぎわいを見せる。

今年は7月15～21日に開催され、来場者数は99万人。人口750万人の香港において、その人気を物語る驚異的な数字だ。

同時開催の「香港スポーツ&レジャーエキスポ」などを含めると、30の国・地域から770を超える出展者が参加。レジャーゾーンの日本エリアには本県を含む19の自治体や団体、企業がブースを構え、それぞれが観光や地域の魅力を発信した。

本県ブースは県内観光地の写真や大きな「栃木」の文字を取り入れた装飾により、来場者の関心を集めた。恒例となったカプセルトイも好評で、ブースへの集客や交流サイト（SNS）フォロワー数の大幅な増加にもつながった。在香港日本国総領事館の三浦潤^{みうらじゅん}大使にも体験いただき、同行メディアなどを通じて本県の魅力を広く紹介する機会となった。

県観光交流課の担当者2人も来港し、特に来場者数の多い日曜日にステージイベントを開催した。県マスコットキャラクター「とちまるくん」も登場し、クイズを交えながら県内の魅力を紹介。多くの来場者が足を止め、終始盛況となった。



【旅行会社向けに行った本県の観光説明会の様子＝7月17日、香港・湾仔】

また、日本政府観光局（JNTO）香港事務所などの関係機関との情報交換の他、現地旅行会社向けには本県の観光説明会を開催。団体旅行や個人旅行、M

ICE（マイル）、アクティビティなどさまざまな専門分野の旅行会社30社が参加し、現地紙の1面で紹介されるなど高い関心を集めた。

説明会では個別相談の機会も設け、ニーズ把握や関係強化を図った。本県との関わりの程度には濃淡があるが、いずれの旅行会社からも強い興味が示された。より詳細な情報を求める声も多く聞かれ、当事務所で個別訪問も進めている。

香港では個人旅行が主流であり、SNSなどを活用した一般向けのPRが重要とされる。一方、旅行商品の造成や販売、情報発信など旅行会社の果たす役割も依然として大きい。今後も個人旅行者への情報発信を中心に、旅行会社などへの働きかけも行いながら、香港における本県の認知度向上と観光誘客に努めていく。